

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年10月1日（金）10時30分～11時55分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

知見主任安全審査官、新井安全審査官、高松専門職、高木係長、横山係長、

久川係員

高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

廣岡原子力防災専門官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当11名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 高性能多核種除去設備（高性能ALPS）サンプルタンクの水移送について
    - ✓ これまで、日々発生する汚染水については、処理量の大きさや調整のしやすさの観点等から、既設ALPS及び増設ALPSを稼働させ、高性能ALPSは待機としていたが、今後発生する二次処理等を見据え、最適な設備運用を行うため、高性能ALPSを適宜稼働させることを計画している。
    - ✓ 高性能ALPSの今後の具体的な運用方法については、現在検討中であるが、今回稼働に向けた準備作業として、高性能ALPSサンプルタンクに貯留されているALPS処理水等（告示濃度比2程度）約3,200m<sup>3</sup>をJ1エリアの貯蔵タンクに移送させる予定である。
  - Eエリアタンク（フランジ型タンク）の残水から検出されたアルファ核種の対応方針について
    - ✓ Eエリアのフランジ型タンク（D1・D2タンク）の解体に向けたタンク内の残水処理において、残水に含まれるスラッジを起因としたアルファ核種の濃度が建屋内滞留水と同程度であったことを受け、今後、以下の対策及び分析を行う。
      - スラッジ回収作業の長期化を見据えた当該フランジ型タンクへの対策
      - ◇ ダスト飛散対策として、タンクのベント管へのHEPAフィルタの取付けを実施済。また、フィルタ出口におけるダストの定期測定を実施中。
      - ◇ タンクの漏えい防止及び漏えい拡大防止の対策として、フランジ部への止水材の上塗りを実施済。本年10月より、タンク内の上澄み水をプロセス主建屋に移送する予定。
- 他エリアタンクの分析（アルファ核種検出確認）
  - ◇ アルファ核種は、タンク底部のスラッジに起因したものと考えており、既設の淡水化装置（RO）の凝集沈殿物、震災直後のRO濃縮水（濃縮塩水）濃縮塩水を蒸発濃縮装置で処理した濃縮廃液には、スラッジが発生していると推定していることから、これらの濃縮塩水等を貯留した履歴のあるタンク群については、本年10月から水質の分析を行う予定である。
  - ◇ また、今後RO濃縮水貯槽から多核種処理水貯槽への用途変更を検討しているタンクについては、隔離措置等のアルファ核種対策

が必要かどうかを確認するため、除染作業前にスミア測定による調査を現在行っている。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
  - 高性能ALPSについて、今後の具体的な運用が社内できりまとり次第、既設ALPSや増設ALPSと同様に、その運転状況や運転計画を定期的に説明すること。
  - スラッジ回収作業の長期化を見据えたEエリアのフランジ型タンクへの対策として、フランジ部の止水処理や上澄み水のプロセス主建屋への移送に加えて、錆が進んでいる天板等の健全性についても確認すること。

## 6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2021年9月30日現在）
- 水処理設備の運転状況，運転計画（2021年9月17日～2021年10月14日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2021年9月17日～2021年9月30日）
- 各エリア別タンク一覧
- タンク群毎の放射能濃度実測値（2021年6月30日現在）
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2021.9.23時点）
- 建屋内における残水等の状況について
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について
- ガレキの保管量の現状（2021年7月30日時点）
- 実施計画記載期限に関わる進捗状況について
- 高性能ALPSサンプルタンクの水移送について
- Eエリアタンク（フランジ型タンク）の残水から検出されたアルファ核種の対応方針について